

第1章 昭和57年度山口大学構内遺跡調査の概要

山口大学構内は縄文時代晩期から近世にかけて生産・消費レベルにおいて日常生活の基盤を形成し、その地域の文化の複合体を拜出する集落の具体相解明に帰与する好個のフィールドを内包しており、山口大学埋蔵文化財資料館は各時期における集落の具体相把握のひとつの手段として、大学構内において関連部局をはじめとした学内・学外の全面的な協力を得て発掘調査を実施している。新営工事における調査は埋設管、環境整備等に伴う請工事の際には必要に応じて立会調査を実施し、施設整備等に伴う建物新営予定地においては周辺地域での既往調査結果を踏まえ、試掘調査等によって本格的な調査が必要であると認められた地域について事前調査を実施している。

昭和57年度は下記の5件について調査を実施した。

中央図書館増築に伴う発掘調査では土壌5基、弥生時代後期のものから近～現代のものまでの溝7条、弥生時代前期から鎌倉時代の遺物を含む旧河川跡、柱穴および3層にわたる遺物包含層を検出した。遺物包含層はいずれも二次堆積によるもので、弥生時代から鎌倉時代にかけての各時期の遺物が混在する。このなかには美濃ヶ浜式土器、分銅形土製品および須恵器の窯の存在を示唆する資料も含まれており、キャンパス内に展開する集落の多様な一面を示している。

また、試掘調査は大学会館新営予定地で実施し、弥生時代後期の堅穴住居跡を検出した。

Tab. 1 昭和57年度山口大学構内遺跡調査一覧

調査区分	調査地区	調査期間	構内地区割	挿図番号 図版番号
事前	中央図書館増築予定地	5月31日 9月11日	M-16区	PL.1-43
試掘	大学会館新営予定地	12月13日 12月28日	M-14区 M-15区	PL.1-44
立会	教育学部附属養護学校プール新営予定地	2月7日 2月14日	M-22区	PL.1-45
	放射性同位元素総合実験室排水桝新営予定地	3月12日	O-18区	PL.1-46
	教養部環境整備予定地	2月21日 3月7日 3月18日	J・K-16区 K・L-17区	PL.1-47



山口大学吉田構内全景（北西から）

Y = -63^K750
y = 1000

Y = -64^K250
y = 500

Y = -64^K750
y = 0

